

神通川の特徴

神通川は流域面積2,720 km²、総延長120kmの富山県内最大の河川です。水源は岐阜県高山市の川上岳であり、富山県境で高原川と合流するまでは宮川とよばれています。高山市中心部や飛騨市旧古川町付近では一度中流の特徴を示しますが、富山県内に入ると上流の特徴をもつ峡谷地形を示し、「神通峡」として親しまれています。旧大沢野町笹津付近より富山平野へ流れ出て、川も中流の特徴を示します。この中流は河川改修によって、両側を堤防で固定されていますが、川幅が十分にあるため、川の屈曲や侵食、堆積の様子を観察できるポイントは少なくありません。笹津から富山北大橋までの間に何カ所か河川敷へ容易に降りられる場所がありますので、より観察しやすいポイントを選んで観察できます。なお、上流の特徴を観察するには、いくつかの支流を選ぶ方法もあります。また、下流の特徴を観察するには、中島大橋より上流側の左岸から河川敷へ降りるか、河口左岸をポイントに選ぶとよいでしょう。特に、河口左岸は砂浜や駐車スペースもあり、落ち着いて観察できます。



上流の特徴を示す支流（長棟川）

上流（庵谷付近）



中流（新成子橋上流側）



中流（有沢橋付近）



河口

